

金曜日の会 報告

- 1 期日 1月15日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 AK、AS YO

【内容】

『あとかくしの雪』 解釈・展開 AK

『世界一美しいぼくの村』 解釈 AS

『多色版画』 AK

『木版画』 AS

○『あとかくしの雪』は、『ああ、ええとも。』と百姓が泊めることを了承した所を問題にしました。前件の『自分の食べるもんもろくにないぐらいのもの』とは、どういう状態なのか？また食べ物だけをさすのか？とにかく、泊めることなどあり得ないと前件を考えてみました。また、旅人の『どうだろうか、～』の頼み方のおかしさと『とぼりとぼり』『冬の日のもう暗くなったころ』との関係、扉を開けた百姓が推し測ったことを考えてみました。ただ、授業の中で子どもの『百姓がやさしい(さびしい)から泊めた』『旅人がかわいそうだから泊めた』という考えを転換させるためには、命をかけて大根を盗むという行為を考え、旅人の側のよほどの理由につなぐ必要があると考えていきました。また、このことは泊めることに迷いがあったか否かという問題とも関わってきます。

○『世界一美しいぼくの村』では、20段落の『でも、何だかむねがいっぱいになってきました。』を受けて『後でびっくりすることがあるよ。』と父さんが言っていますが、これは予定していたことなのか、その時に思い付いたことなのか話題になりました。また、26段落の『おどろく』とこの『びっくり』との違いも気になりました。さらに『もうけたお金を全部使って』真っ白な羊を買う所も不思議でした。でも、前と合わせて、これも父さんの思いつきのように思えました。そう考えると、やはり20段落には重みがあるように思えます。さらに、27段落の『世界一美しいぼくの村』という言葉が唐突に出ていることが不思議に思えました。30段落の意味は、よく分かりません。まだまだ断片的ですが、このような疑問を出し合いました。

○4年生の『花』の木版画も5年生の『古い建築物』の多色版画も、お二人の先生方の試行錯誤が感じられて、刺激を受けました。共通しているのは、『全ての子どもを相手にしていること』です。当たり前のことですが、こうした原点を忘れてはいけないと改めて思いました。困っている子どもが、何に困っているのか？どう言葉をかければよいのか？とても勉強になりました。文責 YO